

第1回

協働の まちづくり プロジェクト会議結果

『遊び心を大切にしたまちづくり』
テーマ



協働のまちづくりプロジェクト会議って何?

協働のまちづくりプロジェクト会議は、町内に居住する20歳以上の委員16名で構成し、まちづくりの課題等からテーマを設け、様々な視点からご意見やご提案等を話し合い、行政運営の参考としています。

『遊び心を大切にしたまちづくり』

11月に開催された第1回の会議結果は次のとおりです。

- 剣淵小学校の栄養士から、管内をいろいろ回つてきましたが剣淵の給食は本当に美味しいと聞いている。そこで、この美味しい給食を一般の方も食べられる所があつたらしいと思う。
- 剣淵町は絵本で名を売っているまちです。仲町の旧倉田ストアの壁に絵が描かれているように、商店街のシャツターや壁にも絵を描いたらしいと思います。それと、家の形をお城のようにしてみたりしてメルヘンなまちをイメージさせてはいかがでしょうか。絵本の里だと感じていただけるようなまちになればいいかなと思う。
- 文化ホールを建てていただき、音楽団を呼んだり、老人大会や芸能発表会をしたりして、のびのびできる活動の場所があれば、豊かな心や遊び心が養う場所になると思う。
- 話を聞いていると抽象的だと感

じます。城下町に行っている人は、雰囲気を味わいに行つていらる。鳥取県境港市にはゲゲゲの鬼太郎の水木しげるロードがあるが、ここも観光客が多い。絵本に合った雰囲気、町並みが必要で、例えば都会から剣淵町に来た方は「空が広い」という景観を楽しんでいる。雰囲気が良くて、また行こうと思えるようなまちづくりが大事だと思う。

□ 美味しい野菜と絵本のコラボでPRしていけばいいと思う。剣淵に行くとこういう美味しい野菜があるよと分かつてもらえるようにしていく。ネーミングも工夫することも大事。

□ 実家が本州で、剣淵町に来て一番感動したのが、星がとても綺麗だと感じました。この綺麗な星空をまちづくりに活かせないのかなと思う。

剣淵町は絵本の里であつて、福祉のまちでもあります。昨年から年に1回、剣淵町民センターで「けんぶち1受けたい授業」を開催しました。これは、西原学園や北の杜舎に入所する方と子供や大人たちが一緒に物づくり体験をしており、昨年は町内の方がほとんどでしたが、今年は口コミで町外からも参加してくれました。

この事業は今後も続けていきたいと思っていますし、福祉のま

□ 町外から来ている奥さんたちから公園が少ないとよく聞きます。児童公園があつても遊具が少なすぎることです。例えば、絵本の森という公園を作つたとして、三四のこぶたの家があつたりとかメルヘン的な公園があれば町外からも人を呼び込めると思う。

□ 世界に一つだけの絵本。お父さんお母さんからのメッセージが書かれた絵本をつくる。

□ バス停の名前を変える。現在、バス停は〇〇宅前の表示になつ

ているが、これをムーニャの丘、イソップの森等にする。また、バス内で絵本の朗読が聴けて、観光地を回るバスがあつてもよい。

□国道を通過する観光者の方は「剣淵がどこにあつたのか分からなかつた」と言つてゐる。市街地への入り口が分からないと思つて、アーケードを作つて誘導してはどうでしようか。

□絵本の原画美術館。大きい建物でなくていい。

□駅前での情報発信。JRで来た方が、どこにどう行つたらいいか分からぬ。有効活用が必要。

□協働のまちづくりは行政と町民がタッグを組むこと。行政の支援が必要。

□剣淵町の中は、観光するなんでもやる課のような町民の意見を聞いて、行政が「やつて

みるか」となるようなタッグを組めることが必要。

また、町民全員が観光大使になり、周りから「そんなことやつているの」と注目されるのもいいと思う。

□資料館には素晴らしい物がたくさん揃つてゐるが、場所が分かれづらい。また、道具を使つて見せてあげることでもつと人を呼び込める。

□団塊世代の仲間が増えてきた。冬にする趣味活動として、将棋や碁をやろうかなと思つても、どういう活動グループがあるのか分からぬ。そういうつた情報誌を作つてみてはどうか。そして、マイナーな活動等も載せてほしい。

□各イベントにはのぼりはてき面。とにかく目立ち、そこで何をしているのかが分かりやすい。のぼりは高い物ではない。

□剣淵町の人口をどう減らさないようどう増やしていくか、後継者をどう育てるかの問題もある。

士別市では、お嬢さんのパートで就農する例が増えてきており、地域も喜んでいる。

剣淵町は農業高校があるけど、地元に残る人は少ない。剣淵高校は、農業と福祉の高校で町外からも通つてゐる生徒がいる。

剣淵高校の卒業生が剣淵町に残れる手段を考えていくのも大切。

□剣淵町に交通機関で来た方に對して、観光場所までの交通手段をどうしたらしいのか考える必要がある。温泉バスがあるが時間の間隔が長い。観光地案内バスを週に2回、1日に2便ぐらいいあればいい。

□海外の観光客が増えてきてるので、英語版等のパンフも必要。観光地をつなぐ手段も必要。現在、アルパカ牧場では、遊びに来られた客を絵本の館まで送っています。行政でも観光地をつなぐ手段を考えていただけたら